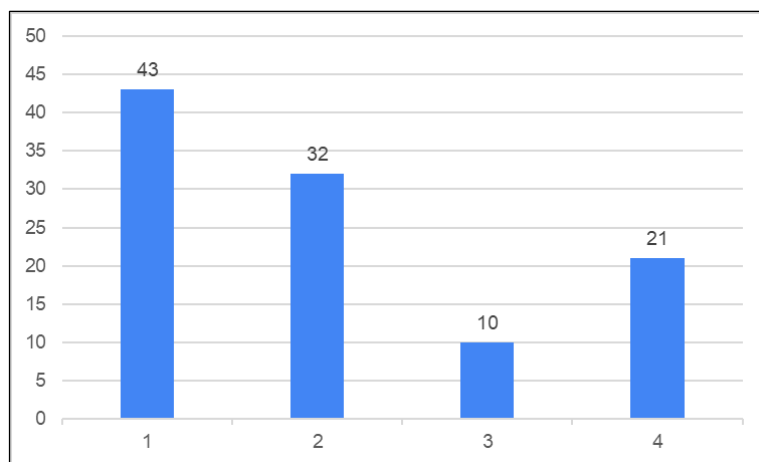




1. 提出書類が多いため	2. 認定申請の際に記載した内容と重複した内容の記載を求められるため
3. 書類の提出方法が郵送のため	4. その他（ ）
4. その他	
1	制度が煩雑で、手続きや手間がかかりすぎる
2	更新するための条件がわかりづらいため
3	説明を読んでも要件が分からず困っています
4	条件クリアがわかりづらい
5	研修履修証明の要件や記載の仕方がよく分からない
6	研修単位、受講など全般が複雑怪奇で理解できない
7	自分の場合どの書類（研修等）が足りないのか分かりにくい
8	様々な研修に参加しても、該当する研修としてよいのか分かりにくい
9	ポイント換算が煩雑と感じてしまうため
10	どのようにポイントを単位計算にしていくのか、誰に聞けば良いのか分からない
11	日本医療社会事業協会の研修、認定との両立、手続きが分からない
12	行政業務で多分野を経験するため1分野を深めることが困難
13	数年にわたり書類を保管する必要がある
14	実践の証明が難しい
15	やる気が無くなると更新手続きは非常に面倒に思える
16	コロナ感染症が流行し、子育てと仕事の両立が精一杯だった
17	更新時期の頃に、職場内でのハラスメントに心身ともにボロボロで診療内科受診していた
18	更新にどんな書類が必要かをそもそも調べていなかった
19	実務に効果があるか疑問に思うため
20	意味がわからない
21	よく分からない

第Ⅱ章認定社会福祉士の認定（資格）に対する期待感の変化

調査項目の大項目Ⅱについては、現在の認定社会福祉士が、認定前にどのようなことに期待していたか、また、その期待は認定後にどの程度満たされたのかについて問い、さらに、認定後、期待の充実度を実感した現在からみて、自分を含めた認定社会福祉士全体に対し、今後（将来に向けて）、どのようになっていくことを期待するのか、というように、過去、現在、未来への期待感の変化をとらえようとしてしました。

Ⅱ. 認定社会福祉士の認定（以下、「認定」という。）に対する「期待」

① 認定前の期待

<結果>

2024 年調査では、第 1 位から 3 位全て、内的能力向上期待を重視していることが分かった。2017 年調査との違いとしては、実質的利益期待が倍以上の件数として増えている。

(汎用)

1. クライアント等からの評価が高まること	2. 社会・地域・他機関からの評価が高まること	3. 職場内での評価が高まること	4. 倫理意識が高まること
5. 知識が豊富になること	6. 技術が高まること	7. 組織又は人の調整力が高まること	8. 人脈又はネットワークが密になること
9. リーダーシップが発揮できること	10. 給与・収入が増えること	11. 仕事の依頼が増えること	12. より専門的な業務を任されること
13. その他 ()	14. とくに何も期待していなかった		

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 位	30	92	31	49	65	62	19	25	14	15	12	32	19	25
2 位	32	49	46	48	58	56	21	33	22	19	14	26	1	4
3 位	32	36	38	43	46	36	26	19	25	19	28	30	7	17
4 位	21	24	18	30	36	4	25	39	26	21	20	17	12	13
5 位	32	28	30	23	20	22	15	38	24	24	23	31	13	12

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 位	150	460	155	245	325	310	95	125	70	75	60	160	95	125
2 位	128	196	184	192	232	224	84	132	88	76	56	104	4	16
3 位	96	108	114	129	138	108	78	57	75	57	84	90	21	51
4 位	42	48	36	60	72	8	50	78	52	42	40	34	24	26
5 位	32	28	30	23	20	22	15	38	24	24	23	31	13	12
合計	448	840	519	649	787	672	322	430	309	274	263	419	157	230
順位	6	1	5	4	2	3	9	7	10	11	12	8	14	13
	1807			2108			1061			956				
	外的評価期待			内的能力向上期待			対外的能力発揮期待			実質的利益期待				

①ー1. 上記①で 13「その他」を選択した場合、具体的な内容を記載してください	
1	職能団体の中で、役職につけると思った
2	資格取得の際のインセンティブ（子ども家庭ソーシャルワーカーの研修免除等）
3	子ども家庭ソーシャルワーカーと同等認定か、資格試験免除規定
4	資格手当がつく評価されない
5	認定あれば診療報酬算定に関連して、病院の収益につながることを期待していたから
6	賃金アップ
7	給与に関係ない
8	自分自身の専門家としてのアイデンティティ
9	自分自身へのステータス
10	独立型社会福祉士や成年後見受任などなどのため
11	自己満足
12	自己研鑽のため認定を目指した。社会的に評価されれば、それはそれで構わないと思っていた
13	継続した成長が望めると思っていた
14	業務に役立つから
15	自己肯定感のアップにつながる
16	仕事を続けていくうえでの必要不可欠な義務として取得
17	より広い視野で物事を見ることが出来るようになる事を期待した
18	認定を目指すソーシャルワーカーが増えること。そのモデルになること
19	それまでの実践をまとめ、次のステップアップに進んでいく（自己研鑽）
20	自分自身のスキルの確認。認定で実施される特別研修等に自身が向かえるか（耐えられるか）を確認したかった
21	基礎研修や実務を通して学び実践したことの成果を確認するため
22	それまで積み重ねてきた勉強を形にしたかった
23	自分自身の能力、経験値の向上を図る目的があった

24	社会福祉士を取り巻く環境が大きく変わっていた
25	自分がソーシャルワーカーとして生きてきた証として認定社会福祉士を取得したかった
26	スーパーバイザーとして必須ではないが、必要な資格と考えていたため
27	「認定社会福祉士が所属している」ということで、社会において事業所の評価が上がる
28	「認定社会福祉士が所属している」ことで、組織の支援・サービスの質の担保を表明できる
29	組織内においてソーシャルワークの専門性を可視化することに貢献できる（役割を担う）
30	認定社会福祉士が部門長になり、SVを担当している。支援の質が担保されている
31	職場内外でSVrをしたいと思い、認定社会福祉士の更新をしてsvr研修を受講したかった
32	看護師や医師と違って、認定をとっても評価される環境にない事はわかっているので、自己研鑽と割り切っているから
33	そもそも、社会福祉士の社会的評価があまりにも低すぎると感じている。我々社会福祉に従事する者として、国の定めた制度（障害福祉制度）に基づいた事業をしており、国が定めた国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士）を取得し、社会福祉士の当然の努力義務である認定社会福祉士を目指すことは、社会福祉士としてごく当たり前のことであると考えている。国が認定社会福祉士を増やすという目標を示していたため、経営者である自分が認定社会福祉士を取得し、高度な福祉倫理に基づいて事業経営を行っていくことについて、国は当たり前に評価を高めてくれるはずだと信じていた
34	社会福祉士としての認知度が高くなっていた
35	世間や同職種の認知度が低すぎる
36	社会福祉士自体の専門性が認知されていないのに、認定を取得しても変わらない
37	行政からの仕事の依頼が少ない状態です
38	勤務をしていたら職場内の人間関係に気を使わなければいけないが、今は1人で仕事をしているため、面倒な人間関係はない
39	クライアントには関係ないし、他も自己管理の問題
40	このアンケートの方法が分かりにくい
41	質問内容がわかりにくく回答しようがない

② 認定前に期待していた項目について、現時点で、期待していた状況に近づいていますか？

<結果>

2024 年調査では、現時点で、期待していた状況に近づいているかとの設問に対して、「社会・地域・他機関からの評価が高まること」が期待していた状況に近づいていないが多い。また、「倫理意識が高まること」「知識が豊富になること」「技術が高まること」は期待に近づいている。

第1位		0	1	2	3	4	5
クライアント等からの評価が高まること	2017年	9	3	1	4	0	1
	2024年	7	4	7	6	3	3
社会・地域・他機関からの評価が高まること	2017年	33	25	13	21	4	2
	2024年	25	17	13	12	12	13
職場内での評価が高まること	2017年	11	4	4	1	1	1
	2024年	16	4	3	3	1	4
倫理意識が高まること	2017年	2	2	3	7	9	3
	2024年	3	5	7	9	12	13
知識が豊富になること	2017年	2	6	8	14	12	4
	2024年	6	7	9	14	18	11
技術が高まること	2017年	1	6	12	11	7	2
	2024年	3	9	9	15	15	11
組織又は人の調整力が高まること	2017年	1	2	3	1	2	0
	2024年	3	4	4	1	4	3
人脈又はネットワークが密になること	2017年	0	2	2	1	1	0
	2024年	7	3	3	3	4	5
リーダーシップが発揮できること	2017年	2	3	0	2	1	0
	2024年	3	2	4	1	2	2
給与・収入が増えること	2017年	2	0	0	0	0	0
	2024年	6	0	2	0	1	6
仕事の依頼が増えること	2017年	0	0	1	1	0	0
	2024年	5	1	1	2	0	3
より専門的な業務を任されること	2017年	9	2	2	1	1	1
	2024年	9	5	6	2	4	6
その他（ ）	2017年	5	1	3	1	4	2
	2024年	5	2	3	3	2	4
とくに何も期待していなかった	2017年	31	0	0	0	0	0
	2024年	12	1	2	4	2	4

第2位		0	1	2	3	4	5
クライアント等からの評価が高まること	2017年	10	2	2	3	0	0
	2024年	9	6	5	10	1	1
社会・地域・他機関からの評価が高まること	2017年	14	6	10	4	2	2
	2024年	13	6	13	8	4	5
職場内での評価が高まること	2017年	14	8	5	3	0	0
	2024年	16	7	8	4	5	6
倫理意識が高まること	2017年	5	4	3	14	13	2
	2024年	3	9	12	9	7	8
知識が豊富になること	2017年	2	6	13	12	9	2
	2024年	3	11	11	23	7	3
技術が高まること	2017年	2	6	6	19	13	4
	2024年	6	9	13	16	9	3
組織又は人の調整力が高まること	2017年	5	2	3	7	1	1
	2024年	2	5	7	4	2	1
人脈又はネットワークが密になること	2017年	5	2	2	1	2	0
	2024年	4	5	9	10	2	3
リーダーシップが発揮できること	2017年	2	3	0	3	1	0
	2024年	3	4	7	4	2	2
給与・収入が増えること	2017年	6	0	0	0	0	0
	2024年	7	5	2	1	2	2
仕事の依頼が増えること	2017年	3	1	1	1	0	0
	2024年	2	3	3	2	2	2
より専門的な業務を任されること	2017年	5	5	5	3	3	0
	2024年	9	4	5	4	2	2
その他（ ）	2017年	59	0	0	0	0	0
	2024年	1	0	0	0	0	0
とくに何も期待していなかった	2017年	0	0	0	0	0	0
	2024年	1	0	1	1	1	0

第3位		0	1	2	3	4	5
クライアント等からの評価が高まること	2017年	11	9	2	1	1	0
	2024年	7	9	5	3	3	5
社会・地域・他機関からの評価が高まること	2017年	8	11	5	5	0	2
	2024年	8	5	12	7	2	2
職場内での評価が高まること	2017年	3	8	3	8	2	1
	2024年	12	5	9	8	3	1
倫理意識が高まること	2017年	0	4	5	8	13	3
	2024年	5	6	7	12	8	5
知識が豊富になること	2017年	2	5	3	11	7	2
	2024年	10	7	9	11	6	3
技術が高まること	2017年	9	9	7	13	4	1
	2024年	5	3	8	12	8	0
組織又は人の調整力が高まること	2017年	2	6	4	4	1	2
	2024年	5	2	5	6	4	3
人脈又はネットワークが密になること	2017年	2	4	3	6	2	2
	2024年	2	6	2	5	3	1
リーダーシップが発揮できること	2017年	5	4	4	4	1	0
	2024年	5	7	3	4	4	2
給与・収入が増えること	2017年	6	1	0	1	0	0
	2024年	9	2	1	5	0	2
仕事の依頼が増えること	2017年	2	1	0	2	1	0
	2024年	4	7	8	4	1	4
より専門的な業務を任されること	2017年	6	1	2	2	1	0
	2024年	11	5	2	7	3	2
その他（ ）	2017年	1	0	0	0	1	0
	2024年	1	4	0	2	0	0
とくに何も期待していなかった	2017年	0	0	0	0	0	0
	2024年	3	8	3	2	0	1